

4. 歩行者系サイン

- 1) 既存サインの考え方
- ・現状多種のサインが設置されているが、設置して間もないと思われるサインも多く、全てを新規デザインに更新することは経済的な観点から考えにくく、利用できる既存サインは基本的に現状維持とする。
  - ・但し、情報更新が必要なもの、老朽化が激しいサインは撤去して新規サインを設置する。
- 2) 新規サインの考え方
- ・シンプルでニュートラルなデザインとする。あえて和風にせず飽きのこないデザインとする。
  - ・観光案内など大型サインは既製品をベースに色調やグラフィックなどで地域性を表現する。
  - ・施設の解説サインは他のサインと同じ製品の使用を基本とし、場所などにあわせて形状寸法や色を調整する。
  - ・誘導サインはコンパクトなサイズを基本とし、情報無しに人が不安なく歩ける距離を目安とする（150～300m）。
  - ・「観光案内サイン」→「案内誘導サイン」→「誘導サイン」→「解説サイン」といった階層的なサインシステムとする。
  - ・情報更新への対応、破損時も短期間で修繕できるような構成などに配慮したサインとする。
  - ・サインの形状、素材、色彩、フォントなど統一感を感じられる表示デザインとする。
  - ・サイン表示は英語を併記する。中国語や韓国語などの併記は行わない。

- 基本色彩案 深縹色（こきはなだ色）
- ・藍染めのなかで最も濃く深い色。わずかに紫を帯びた青色。
  - ・縹色は別名：月草色。
  - ・長門湯本温泉の云われの月夜での出来事を連想。
  - ・日本の伝統色でもてなす。

長門 湯本温泉の云われ



大寧寺の第3世住職、定庵禪師（1373～1432）の時代。ある月の明るい夜、定庵禪師が寺のまわりを散歩していると、石の上で座禅をしている老人に出会った。和尚が名前をきくと老人は歌でこたえた。

「松風の声のうなる隠れ家はむかしも今も住吉の神」

老人は長門一宮（下関）の住吉大明神であった。老人はその後、名僧、定庵の説法の席に通い、仏道を修めた。応永34年3月23日、定庵禪師から法衣を贈られた老人は法恩に報いるため、「山の奥に温泉を出しておきましたのでご利用ください。」と告げた。たちまち雷鳴が轟き、老人は大きな竜の姿になって雲の上に消えていったという…

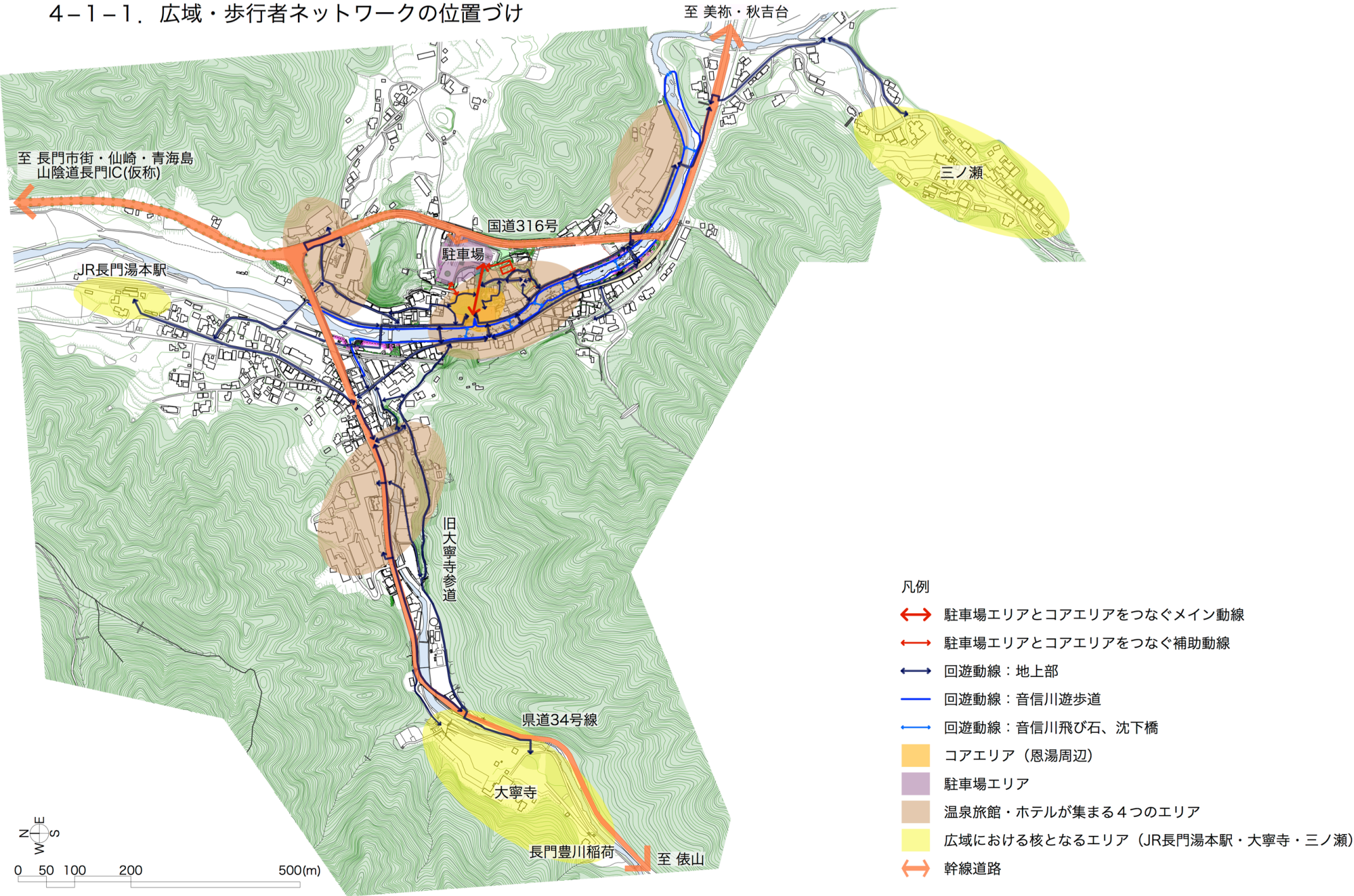
「湯本温泉旅館協同組合HPより転載」



PA：観光案内サイン	PB：案内誘導サイン	PC：誘導サイン	PD：施設名称サイン	PE：解説サイン	
				※既存の解説サイン有り。	
				PE-A：解説サインA 	PE-B：解説サインB 
				PE-C：解説サインC 	PE-D：解説サインD 
				PE-E：解説サインE 	

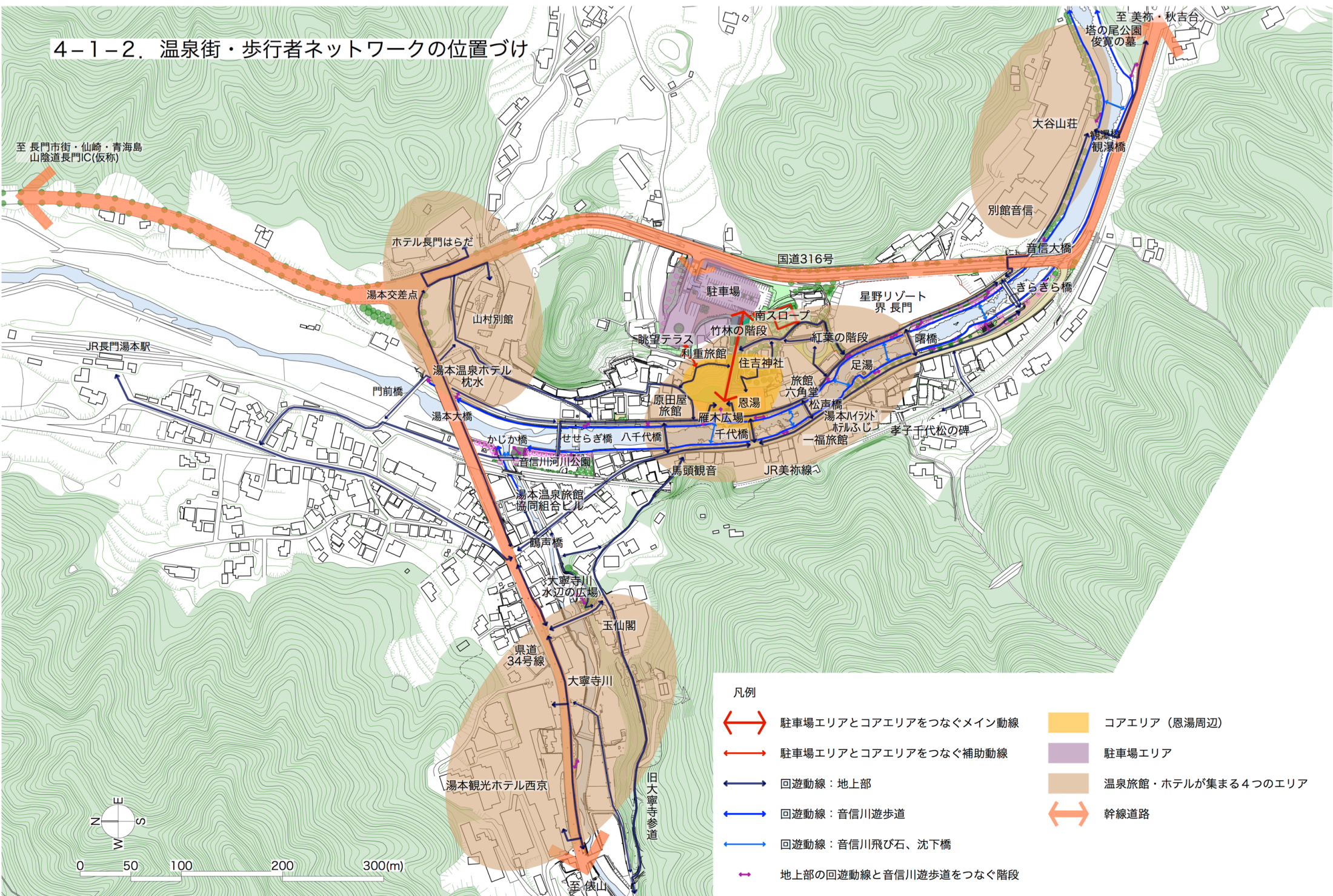


4-1-1. 広域・歩行者ネットワークの位置づけ



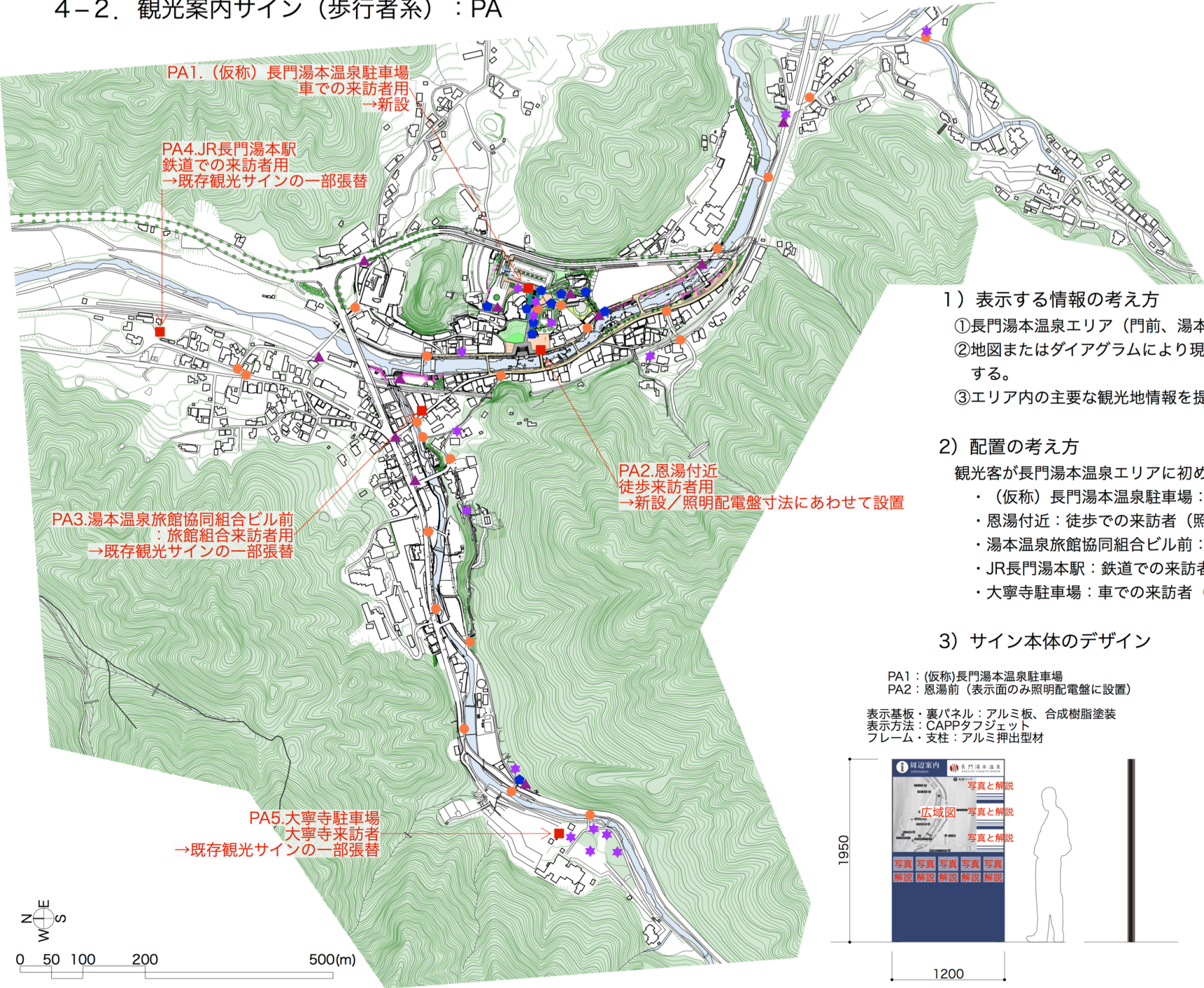


#### 4-1-2. 温泉街・歩行者ネットワークの位置づけ





4-2. 観光案内サイン（歩行者系）：PA



1) 表示する情報の考え方

- ①長門湯本温泉エリア（門前、湯本、三ノ瀬）の全体像を伝える。
- ②地図またはダイアグラムにより現在地と利用者が知りたい領域の関係を把握する。
- ③エリア内の主要な観光地情報を提供する。

2) 配置の考え方

観光客が長門湯本温泉エリアに初めに到着する地点に配置する。

- ・（仮称）長門湯本温泉駐車場：車での来訪者
- ・恩湯付近：徒歩での来訪者（照明配電盤寸法にあわせて表示面のみ設置）
- ・湯本温泉旅館協同組合ビル前：旅館組合来訪者（既存観光サイン張替）
- ・JR長門湯本駅：鉄道での来訪者（既存観光サイン一部張替）
- ・大寧寺駐車場：車での来訪者（既存観光サイン一部張替）

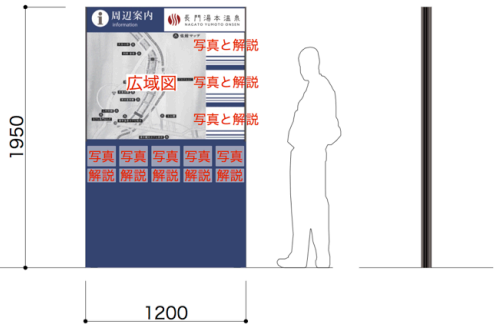
3) サイン本体のデザイン

PA1：(仮称)長門湯本温泉駐車場  
PA2：恩湯前（表示面のみ照明配電盤に設置）

PA3：旅館組合前  
既存サインの張替

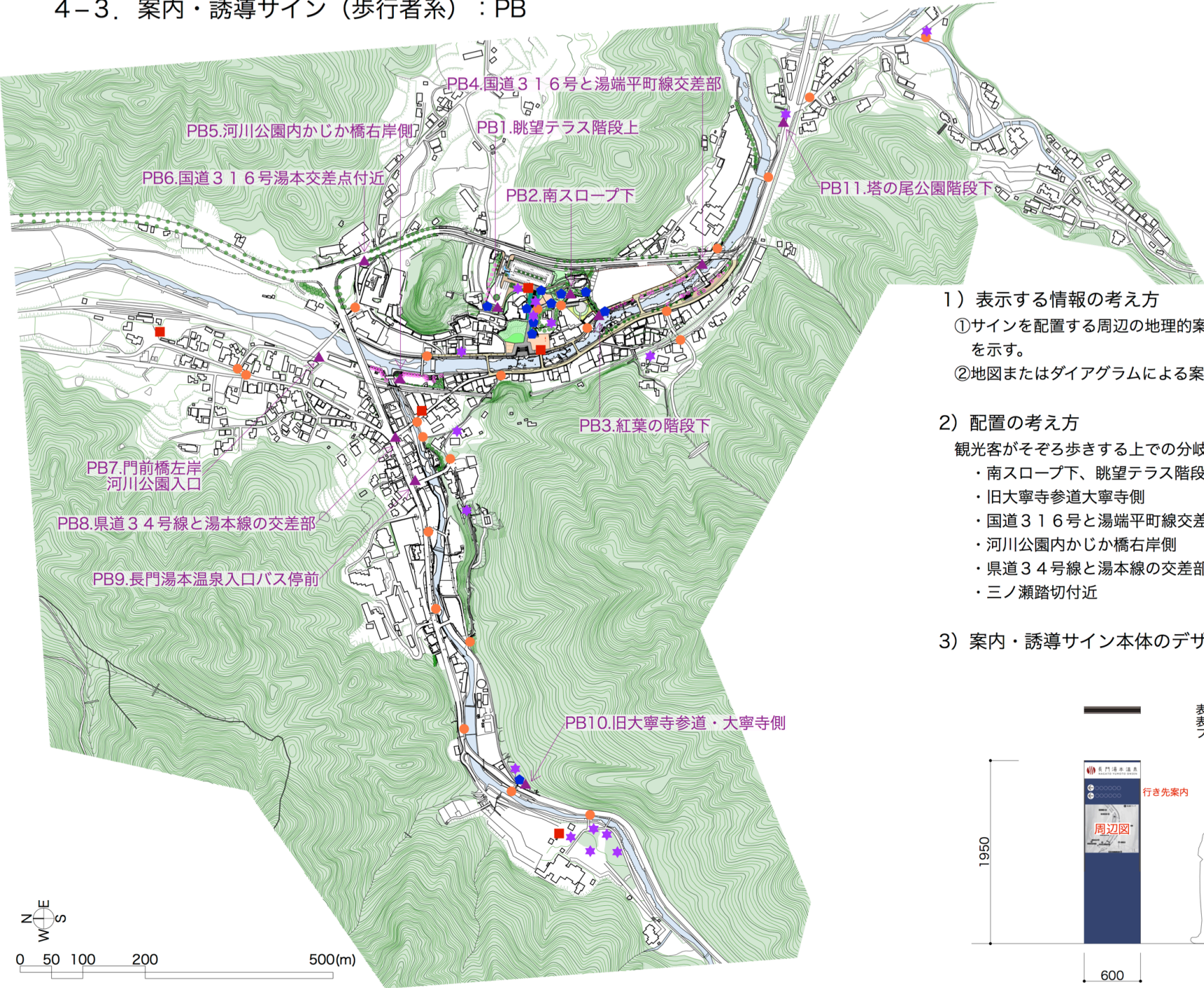
PA4：長門湯本駅  
PA5：大寧寺駐車場  
既存サインの一部張替

表示基板・裏パネル：アルミ板、合成樹脂塗装  
表示方法：CAPPタフジェット  
フレーム・支柱：アルミ押出型材





4-3. 案内・誘導サイン（歩行者系）：PB



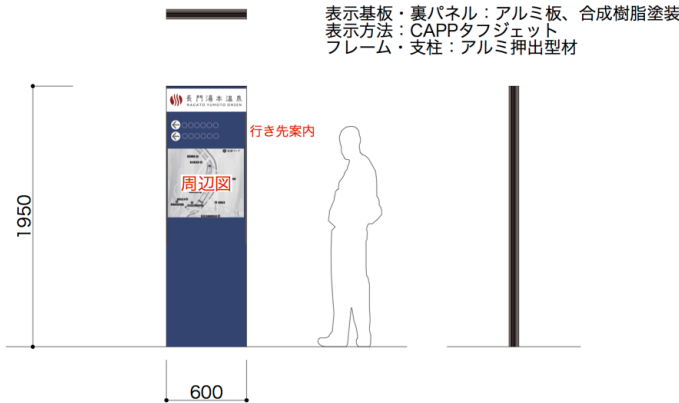
1) 表示する情報の考え方

- ①サインを配置する周辺の地理的案内とともに、主要な観光地や施設への方向を示す。
- ②地図またはダイアグラムによる案内、施設名と矢印を示す。

2) 配置の考え方

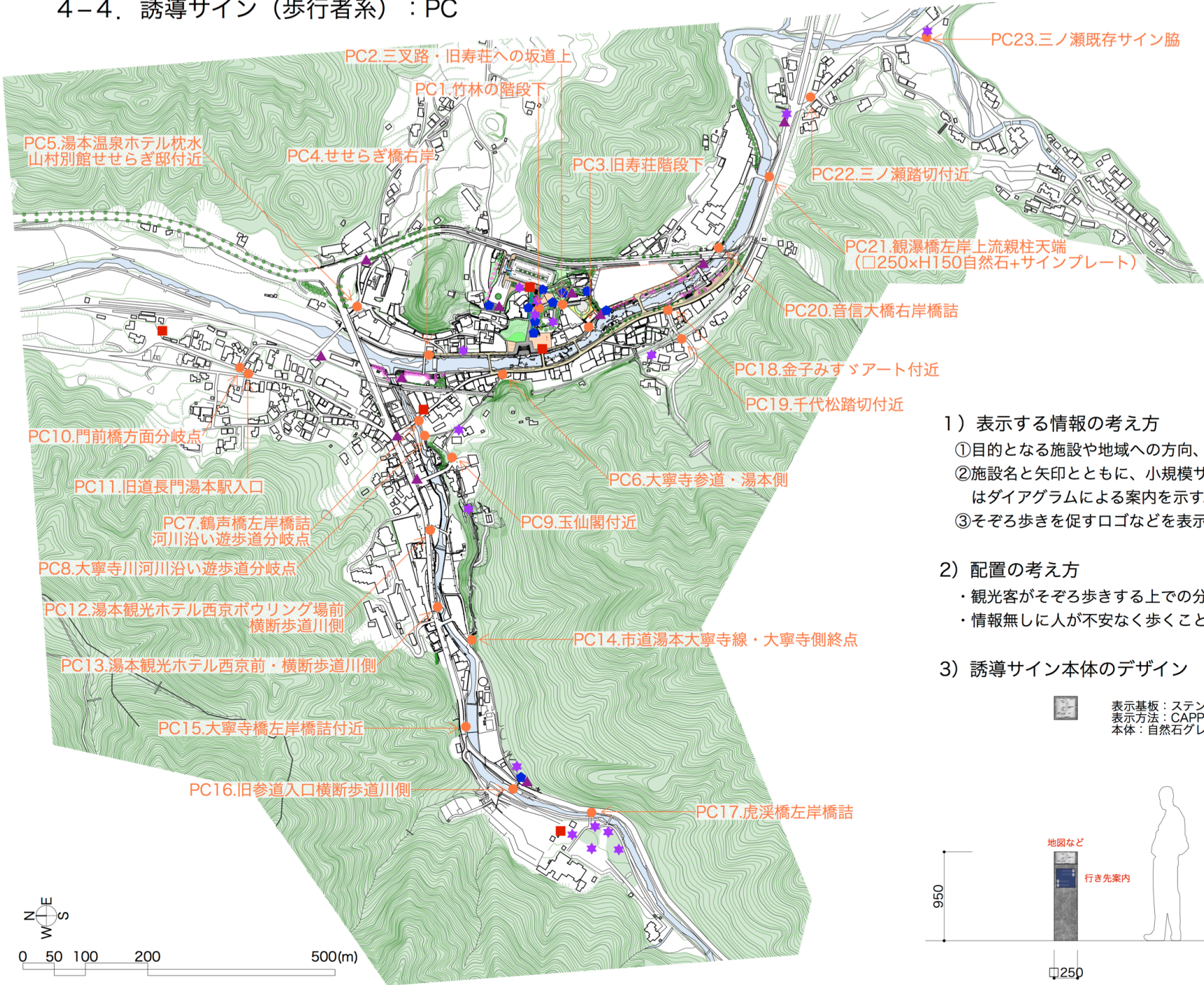
- 観光客がそぞろ歩きする上での分岐地点に配置する。
- ・南スロープ下、眺望テラス階段上、紅葉の階段
  - ・旧大寧寺参道大寧寺側
  - ・国道316号と湯端平町線交差点、国道316号湯本交差点付近
  - ・河川公園内かじか橋右岸側
  - ・県道34号線と湯本線の交差点、県道34号線湯本温泉入口バス停付近
  - ・三ノ瀬踏切付近

3) 案内・誘導サイン本体のデザイン





4-4. 誘導サイン（歩行者系）：PC



1) 表示する情報の考え方

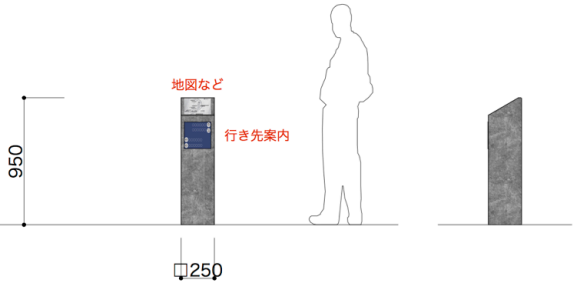
- ①目的となる施設や地域への方向、距離等を示す。
- ②施設名と矢印とともに、小規模サインのため表示範囲は限られるが地図またはダイアグラムによる案内を示す。
- ③そぞろ歩きを促すロゴなどを表示する。

2) 配置の考え方

- ・観光客がそぞろ歩きする上での分岐地点や中継地点に配置する。
- ・情報無しに人が不安なく歩くことができる距離150～300mを目安とする。

3) 誘導サイン本体のデザイン

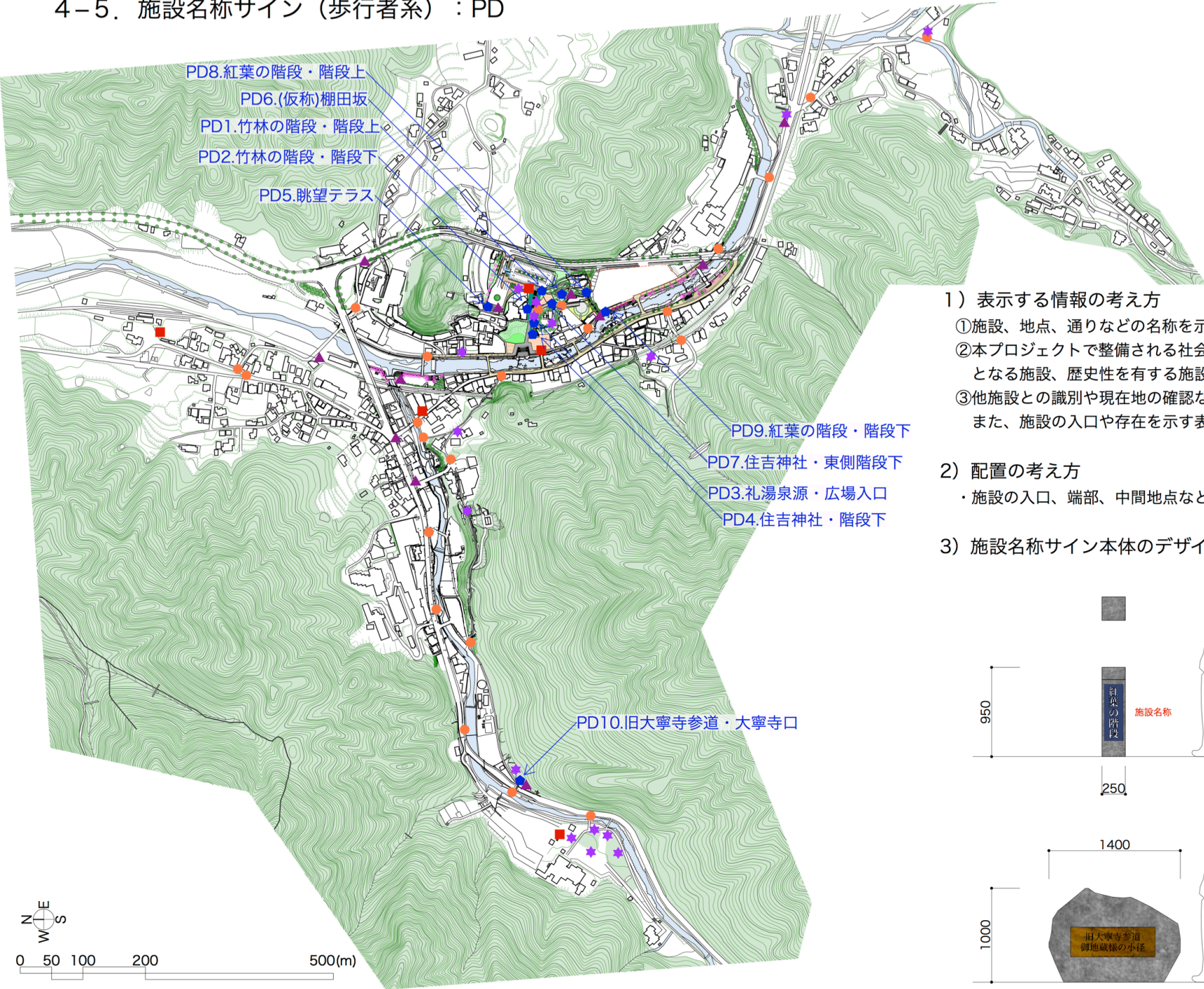
表示基板：ステンレスホーロー板  
表示方法：CAPPTafjeet  
本体：自然石グレー色



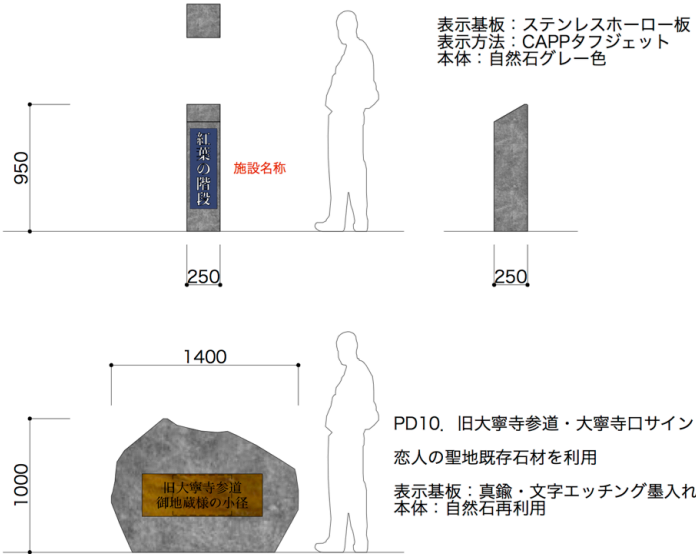
自然石サイン  
(メーカーカタログより転載)



4-5. 施設名称サイン（歩行者系）：PD

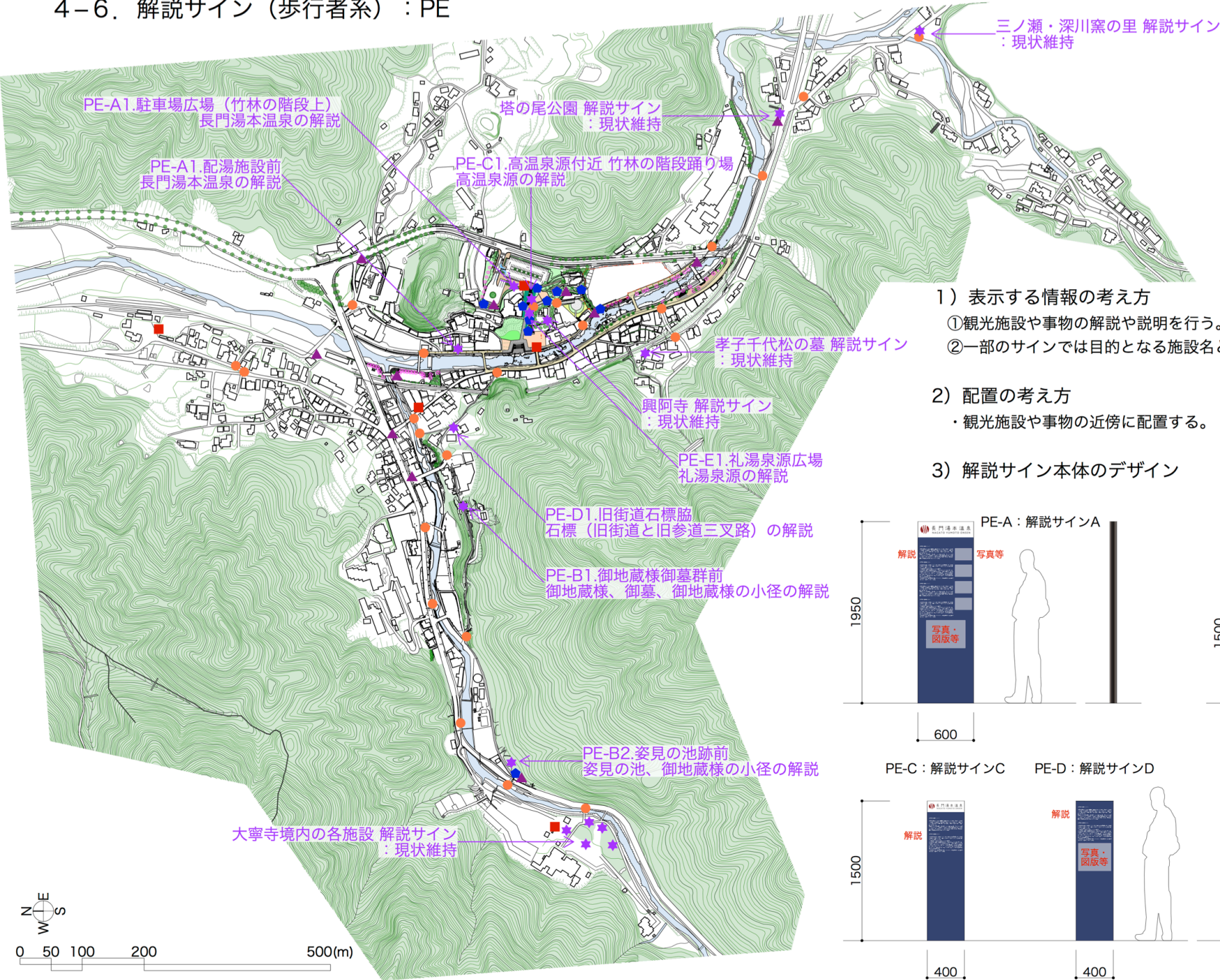


- 1) 表示する情報の考え方
- ①施設、地点、通りなどの名称を示す。
  - ②本プロジェクトで整備される社会基盤のうち、特に、回遊性や絵になる場所となる施設、歴史性を有する施設を示す。
  - ③他施設との識別や現在地の確認などを行うための最も基本的な情報である。また、施設の入口や存在を示す表札のような意味合いがある。
- 2) 配置の考え方
- ・施設の入口、端部、中間地点などに配置する。
- 3) 施設名称サイン本体のデザイン





4-6. 解説サイン（歩行者系）：PE



1) 表示する情報の考え方

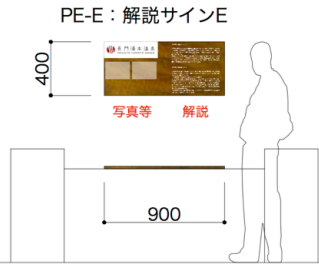
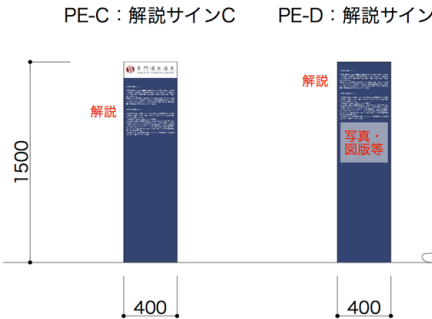
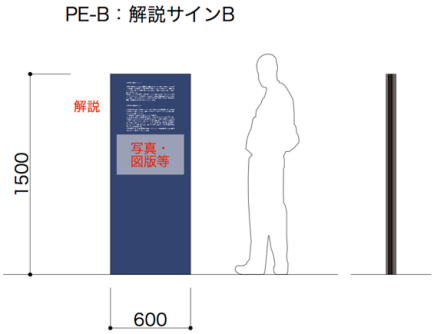
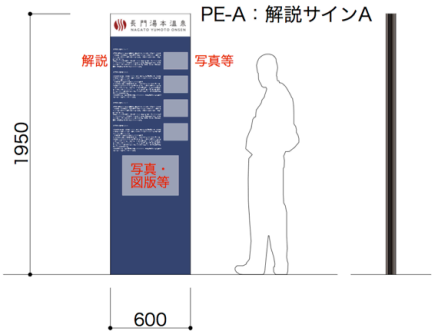
- ①観光施設や事物の解説や説明を行う。文字情報、図版、写真などを示す。
- ②一部のサインでは目的となる施設名と方向を示す。

2) 配置の考え方

- ・観光施設や事物の近傍に配置する。

3) 解説サイン本体のデザイン

表示基盤・裏パネル：アルミ板、合成樹脂塗装  
表示方法：CAPPタフジェット  
フレーム・支柱：アルミ押出型材



表示基盤：真鍮・文字などエッチング